

## ■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。  
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

\* :著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC:著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

②:パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし:上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 朝日講座「知の冒険」  
Copyright 2013, 赤川学

The University of Tokyo / Todai OCW The Asahi Lectures “Adventures of the Mind”  
Copyright 2013, Manabu Akagawa

# 家族とは誰のことか ——家族の境界をめぐって

---

赤川学(社会学)

# 家族とは何か1

- ◆ テレビドラマ『最高の離婚』(2012年度)第4回・放送分(フジテレビ、2013年1月31日放送)

「私はもっと…もっとって言うか、あなたはバカにするけど、私はただ、私はただ、別に普通の家族になりたかつただけで…」

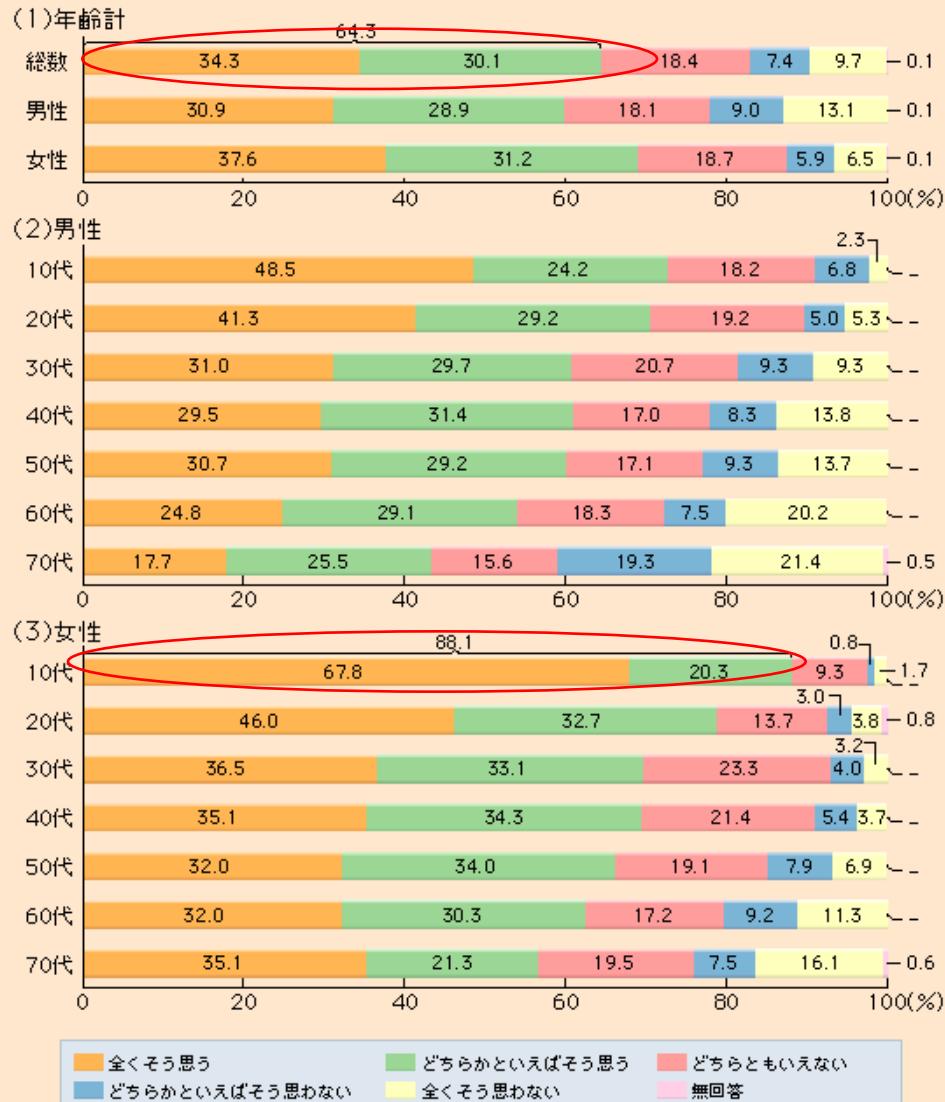
「普通の家族って何だよ？」

「いちばん最初に思い出す人だよ。いちばん最初に思い出す人たちが集まってるのが家族だよ！」

# 家族とは何か2

- ◆ 百田尚樹『海賊と呼ばれた男』(2012)
  - ◆ 田岡鐵造(出光興産・創業者)の評伝
  - ◆ 敗戦後の苦しい時期、社員のリストラを勧める経営陣に対して...
  - ◆ 「店員は家族と同然である。社歴の浅い深いは関係ない。君たちは家が苦しくなったら、幼い家族を切り捨てるのか」(上巻, p.22)

# 「ペットも家族の一員」という考え方



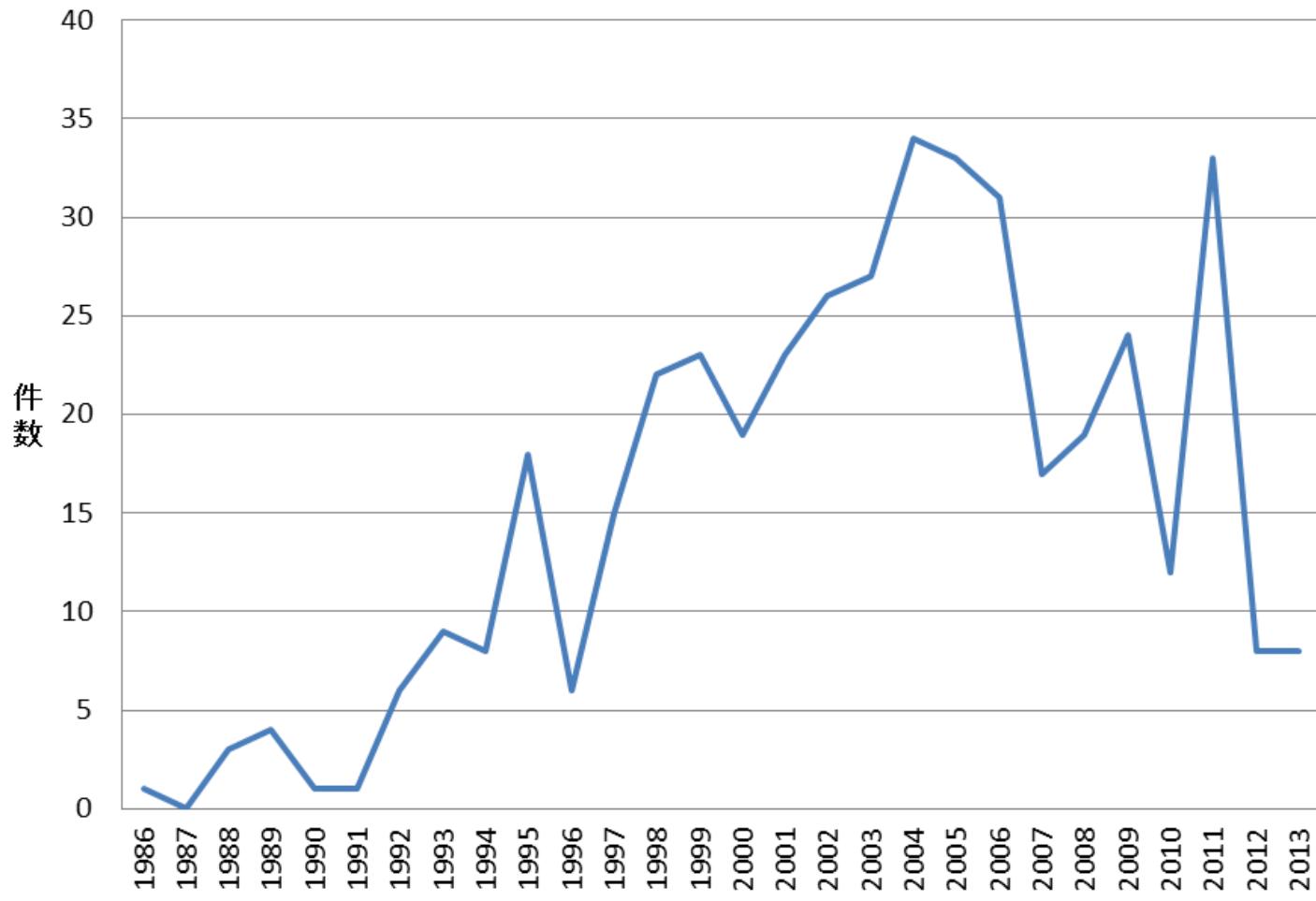
(備考) 1. 内閣府「国民生活満足度調査」(2001年)により作成。  
2. 「あなたは、ペットも家族の一員であるという考え方について、どのように思いますか。」という問に対する回答者の割合。

- ◆ 平成13年度『国民生活白書』
- ◆ 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が64.3%。過半数を超える。
- ◆ 女性や若年層で「そう思う」の割合が高い。

平成13年度 国民生活白書  
～家族の暮らしと構造改革～  
コラム ペットと家族の関係 図1  
(<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/wp-pl/wpl01/index.html>)

# 朝日新聞記事データベース『聞蔵』 「ペット」は「家族の一員」

朝日新聞「ペット & 家族の一員」記事数 (1986—2013)



# 「ペットは家族の一員」の例

- ◆ (うちのコ☆ストーリー) 桑久保さんちのラーウくんとみりんくん／栃木県
- ◆ (オス・3歳) =宇都宮市
- ◆ 3年前の春、次男がペットショップで買ってきたフェレットです。結局、私が世話係になりました。次男は名前をつけるのに苦労した末、ふと台所にあったものに目をつけ、「みりん」と「ラーウ」にしました。名前を呼ぶと迷惑そうに振り向きますが、すぐどこかへ行ってしまいます。
- ◆ 名前が嫌なのでしょうか、何度か脱走しましたが、数日後に戻ってきた時には大感激で涙しました。
- ◆ 私は孫無じいさんです。毎日抱っこして散歩するのは楽しいものです。今では家の偉いあのお方(妻)より存在感があり、愛くるしい家族の一員でもあります。

=桑久保均さん(64)

『朝日新聞』2013年06月27日 栃木県全県版、下線部赤川

# 社会学は家族をどう捉えたか :家族定義の不可能性

- ◆ 家族という集団を血縁と婚姻の組合せで客観的に記述できるか → できない
- ◆ 家族が果たす機能(子どもの基礎的社会化や成人のパーソナリティ安定化)によって定義できるか → できない
- ◆ 家族とされる成員の範囲は、研究者が客観的に確定できるか → できない

# ファミリー・アイデンティティ(F.I.)論

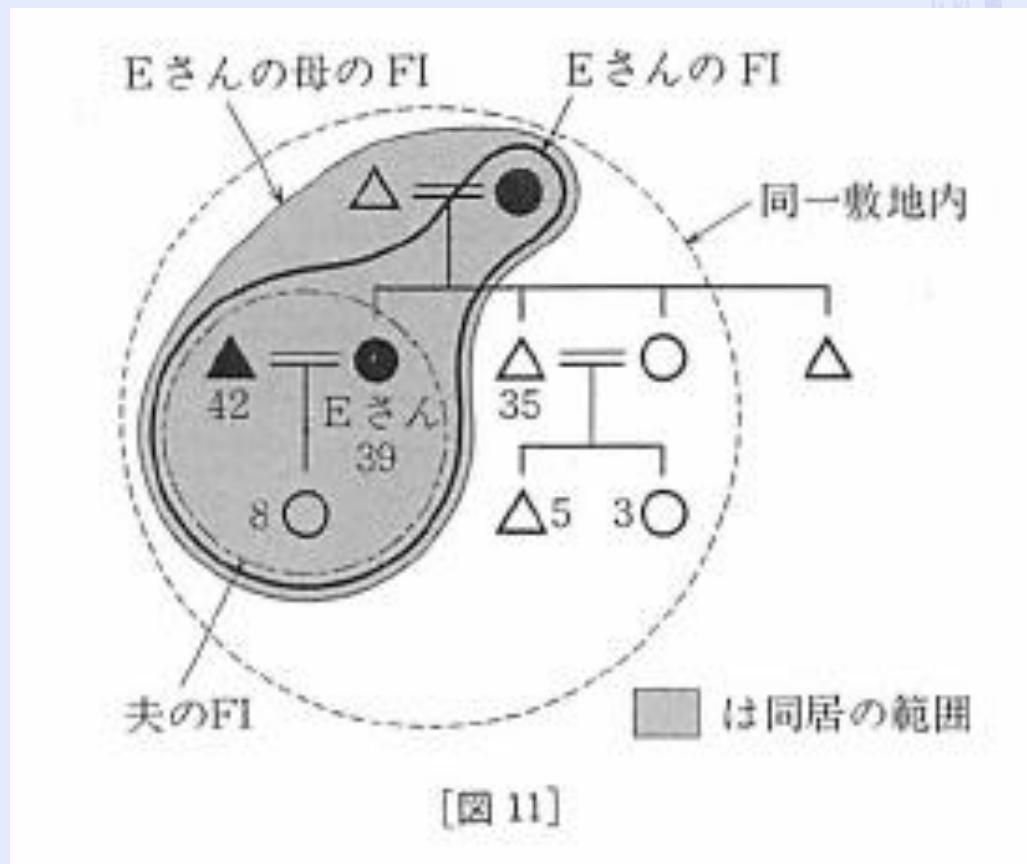
- ◆ 社会学者・上野千鶴子が提唱(1991)
  - ◆ 「家族」は実体よりもより多く意識の中に存在する。
  - ◆ 意識と形態の面で非伝統的な(居住と血縁が一致しない)50の類型に対して、「あなたはどの範囲の人々を『家族』と見なしますか」という「境界の定義」を尋ねる。  
例) 単身赴任、双系同居、里親制度、レズビアンカップル、ペットとの同居など
  - ◆ 親子・配偶者間でも、家族の範囲はずれる。

# ファミリー・アイデンティティ論の知見

例) 都市型三世代居住の  
ケース(Eさん・39歳女性)

Eさんは自分の母親を家  
族に含めるが、Eさんの夫  
は含めていない。

三世代同居という伝統的  
形態のもとでも、働く母親  
のニーズが控えている。



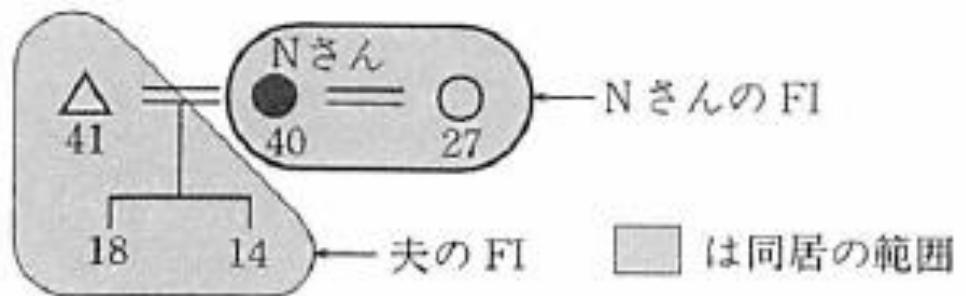
\* 上野千鶴子『近代家族の成立と終焉』岩波書店、  
1994年(第4刷)、p18、図11

例) レズビアン・カップルの  
ケース(Nさん・40歳女性)

夫と別居後、別の女性と同居

非血縁の同居では、「姉妹の  
ような」など血縁関係のメタ  
ファーがむしろ使われる

実体的基盤によらない関係  
では、むしろ親族関係の用  
語で関係を補強する傾向が  
働く。



[図 21]

\* 上野千鶴子『近代家族の成立と終焉』岩波書店、  
1994年(第4刷)、p34、図21

# 家族の認知的境界／規範的境界

- ◆ F.I.論は「誰を(どこまでを)家族とみなすか」という認知の水準。
- ◆ 「どのような関係や状態を家族とみなすべきか」という規範の水準を論じる必要もある。

●家族の範囲に関する調査●

① 家族だと思う  
② どちらかというと家族だと思う  
③ どちらかというと家族だと思わない  
④ 家族だと思わない

家族と見なすかどうかについての質問	①	②	③	④ (%)
単身赴任して、ほとんど行き来がない夫婦。	44	18	25	13
一緒に生活しているけれども、愛情がまったく感じられなくなった夫婦。	20	18	38	25
娘が結婚して夫の姓に変わったが、娘の親夫婦と同居しているときの親一娘関係。	73	18	3	6
夫の両親と同居し、なごやかに一緒に生活をしている嫁と夫の親。	86	8	4	3
夫の両親と同居しているが、お互いに不和な嫁と夫の親。	54	19	19	8
愛情を込めて育てているペット。	36	29	8	27

長野県S町調査（1988年8月実施）  
20歳～60歳未満ランダムサンプリング 160サンプル 有効回収117通（男性58、女性59）

\*

山田昌弘『家族ペット-やすらぐ相手はあなただけ』サンマーク出版、2004年、p35

# 家族の構築主義的理解

- ◆ 家族の境界設定は、不斷の日常的実践によって達成される人為的構築物。
- ◆ 家族の境界設定は、人によつても異なるが、その基準は歴史的にも変化する(家族の境界設定の歴史性)。
- ◆ 家族の用法(誰が家族か、家族とは何を意味するか)は、組織の中に埋め込まれている(Gubrium & Holstein, 1990=1997)。

# 公的機関にとっての「家族」

- ◆ 精神的に混乱したロドニーを街角で保護した警官が、ロドニーの家族を探した。
- ◆ 血縁はつながっていないが同居している「ママ」がいた（生物学的母親とは絶縁状態）。
- ◆ 警官は「ママ」に母親の地位を付与した。
- ◆ 警官にとって家族とは血縁ではなく、「家族のようなやり方で、彼を世話をする誰か」を意味していた。
- ◆ 公的機関では、「世話をすること」が家族であることの重要な要件とみなされる。

◆ Gubrium=Holstein, ibid, 238-241)

# 家族境界の歴史的変容 ——血縁／同居から親密性へ

- ◆ 「血縁」を強調すれば、「夫婦も所詮は他人」「嫁と姑は他人」ということになる。
- ◆ 「同居」を強調すれば、継親・継子の関係でも家族の一員となる。しかし同居していない人でも家族の一員とみなされる場合は多い。
- ◆ 絶対の解答はないので、それぞれに腐心しながら家族の境界を設定することになる。しかし近年浮上しているのは親密性の基準。選択の対象としての家族。

# 純粹な関係性とその困難

- ◆ 「家族とは、ほんとうは形ではない。親子の揃っている図式でもなく、形の上での一族でもなく、ましてや単なる国家形成上の小さな団体でもない。相手を思いやる気持ちや愛情の深さであるはずなのだ」(下重暁子「なぜ家族ぎらいなのか」『婦人公論』1987年9月号、下線部引用者)。
- ◆ 純粹な関係性の困難  
「因習にとらわれない関係は、決まりがないため、難しいのです。(中略) 同性愛者の関係では、私たちのほとんどは(中略) 実際には、決まりなんか本当に何もないため、だから、自分たちが今やっているように、むしろ自分たちで取り決めを作っていくことになるのです。」アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』(1992=1995:202)

# 山田昌弘の家族ペット論

- ◆ ひとはなぜペットを飼うのか
  - ◆ 2003年7～10月、ペットを飼う男女9名にインタビュー。
  - ◆ ペットは愛人(男性55歳)
  - ◆ ひと目で好きになる—自分さがしの成功(女性40歳)
  - ◆ 子としてのペット、夫婦関係の緩衝材、共通の話題提供者(女性42歳)
  - ◆ 仕事をするのはペットのため(女性60歳)
  - ◆ 猫との同棲生活(男性32歳)——純粹な関係性
  - ◆ 女性の「分身」(子ども)としてのペット(女性26歳)
  - ◆ ご近所デビューのきっかけ(男性53歳)
  - ◆ 18歳の老猫をみとった介護・宗教体験(女性50歳)

- ◆ 家族ペットに求めるものとしての「かけがけのなさ」と「自分らしさ」——人間の家族には求めることが難しくなった。
  - ◆ 生活が豊かになると、家族への期待が高まるが、現実にこの期待を家族は満たせない。
- 
- ◆ 「理想の家族」の投影先としてのペット
    - ◆ 互いに信頼しあい、何でも話せて、心が安らぎ、家族のために犠牲を惜しまず、自分を裏切らない存在
    - ◆ とりかえがきかず、適度な手間がかかり、いろんな役割を担うことができる存在
    - ◆ あるときは理想の恋人、理想の配偶者、理想の子ども、理想の要介護の親…

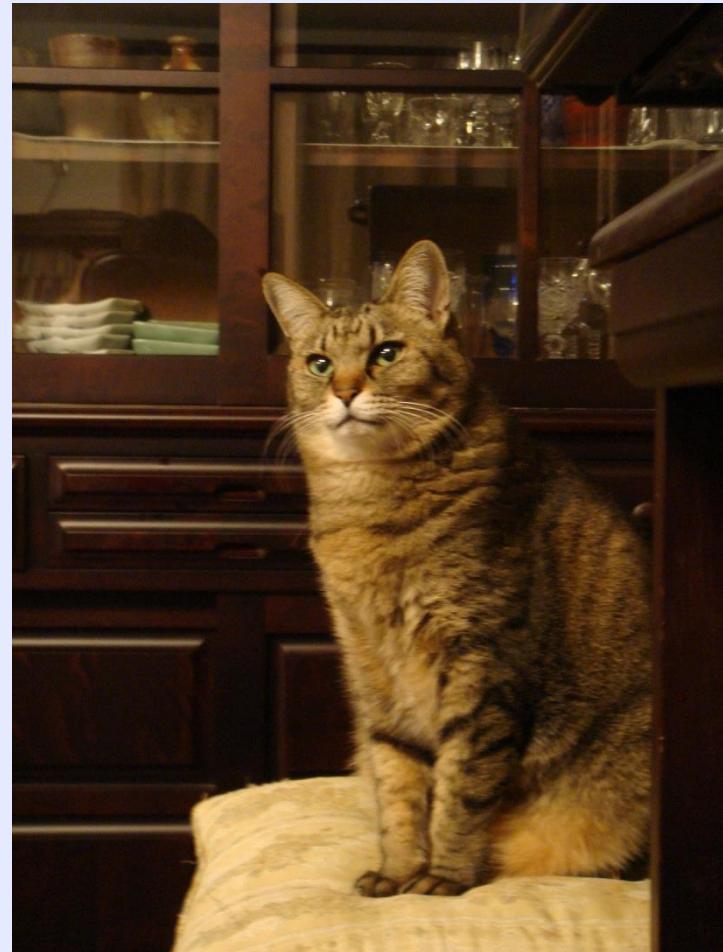
# ペットの死はなぜつらいのか(私論)

- ◆ 赤川にやんこ先生(1994—2011、メス)
- ◆ 1994年秋、友人から譲り受ける。
- ◆ 当時、貧乏院生で自宅に引き籠もっていたので、えさ・下の世話を担当。
- ◆ 猫は自立心が強いので、世話をしたからといってなつくわけではなく、甘えたい時だけ甘える。



# 赤川にゃんこ先生の生涯

- ◆ 1歳時の膀胱炎、9歳時の捻挫、4度の引っ越しを乗り越える。
- ◆ 16歳時に腎炎発症、体重減退。
- ◆ 2011年3月以降、虚血性の発作を繰り返す。
- ◆ 2011年8月20日永眠(享年17歳)。



# 娘であり、愛人であり、老親でもあり…

- ◆ 人間に換算すると、猫は1年に5歳年をとる。
- ◆ 幼いころは娘。
- ◆ 成人してからは愛人(同衾、ひとりごとの相談相手)。
- ◆ 老いては老親介護のごとし。
- ◆ 「見返りのない愛」を実感した。



# 文献

- ◆ 赤川学, 1997, 「家族である、ということ」太田省一編『分析・現代社会』八千代出版, 97-117.
- ◆ Gubrium, J.F. & Holstein, J.A. 1990, *What is Family?*, Mayfield Publishing Company. =1997, 中河他編『家族とは何か』新曜社.
- ◆ Giddens, A. 1992, *The Transformation of Intimacy*, Polity Press. =1995, 松尾・松尾訳『親密性の変容』而立書房.
- ◆ 百田尚樹, 2012, 『海賊と呼ばれた男』講談社.
- ◆ 内閣府, 2002, 『国民生活白書』(<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/wp-pl/wp-pl01/html/13104c10.html>)
- ◆ 下重暁子, 1987, 「なぜ家族ぎらいなのか」『婦人公論』1987年9月号.
- ◆ 上野千鶴子, 1991, 「ファミリー・アイデンティティのゆくえ」上野他編『シリーズ／変貌する家族 I／家族の社会史』岩波書店, 1-38.
- ◆ 山田昌弘, 2004, 『家族ペット』サンマーク出版.